

「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.16 (March 2009)



KIFAクリスマス会にて (2008年12月14日)

Contents

☆ 会長あいさつ：藤田美保、 ☆ 蟹江町長あいさつ：横江淳一	2
☆ 2008年度実施の主要行事一覧	2
☆ 「日本語スピーチ大会」開催報告	3
☆ 「スピーチ大会」各発表者による発表内容の概要	4-9
☆ 「ヤンゴン（ミャンマー）のHHHPの施設を訪ねて」（磯部正弘）	10
☆ マリオン市への蟹江町中学生派遣交流事業の報告	11
☆ 「赤毛のアン」への旅（深山加代子）	12
☆ 「元気なニカさん、スロヴァキアから」（谷中ひさ子）	13
☆ 講演会「わたしの見た微笑みの国カンボジア」を聴いて（伊藤玲子）	13
☆ 世界の国旗、2009年度行事予定、企業・賛助会員一覧	裏表紙

「かにえ国際交流友の会、創立15周年」

会長 藤田美保



私達のKIFAは1993年の創立から今年度で15年経ち、これを記念した「日本語スピーチ大会」を、蟹江町と共催で昨年11月に行いました(当会報の特集を参照)。この種の催しとしては大変盛況であったと確信しますが、これもひとえに皆様方のご協力のお陰と感謝する次第です。特に、出演(発表)された外国人の方にはその準備と努力に対して厚くお礼を申し上げます。

特集の発表概要からも分かりますが、ほとんどの発表者が私達や周辺の日本人の好意的な対応に言及してみえます。これは「国際交流ならびに親善」を目的とするこのKIFAにとって、大変うれしいことです。私達の力は小さなものですが、このように善き印象を持ってくれる外国人の方が増えることに役立つことができれば幸いです。

しかし、最近の不況のなか失職して、日本で築いた生活基盤を失い、帰国を余儀なくされる外国人の方が出てきているのは大変残念なことです。このような経済環境に対しては私達のできる術は全くないのですが、少なくとも外国人を排斥する風潮が私達の周辺からは出てこないようには努力したいものです。不本意ながら日本を去らねばならない人にとって、現在の世界的規模の不況のもとでは帰国先でも大変かもしれませんが何とか努力で切り抜かれるようにと願うところです。

しかし、最近の不況のなか失職して、日本で築いた生活基盤を失い、帰国を余儀なくされる外国人の方が出てきているのは大変残念なことです。このような経済環境に対しては私達のできる術は全くないのですが、少なくとも外国人を排斥する風潮が私達の周辺からは出てこないようには努力したいものです。不本意ながら日本を去らねばならない人にとって、現在の世界的規模の不況のもとでは帰国先でも大変かもしれませんが何とか努力で切り抜かれるようにと願うところです。

「かにえ国際交流友の会に期待する」

町長 横江淳一



KIFAの皆様におかれましては、日ごろから地域の国際交流にご尽力いただき、心から敬意を表するとともに厚くお礼申し上げます。

蟹江町は、昨年度から新たに中学生海外派遣交流事業や国際理解・多文化共生事業を行い、国際交流をますます充

実させております。派遣先のアメリカ合衆国イリノイ州マリオン市では、熱い歓迎を受け、友好的な関係を築くことができました。現地でも多くのかたと交流を深めた中学生にとって、この経験は何物にも変え難いものとなったでしょう。町としては、今後も、マリオン市との交流を続けていきたいと考えております(注:11ページの記事参照)。

また、KIFA共催のイベント「世界中の人々のお話を聞こう!~外国人による日本語スピーチ大会と講演会」では、聴講いただいた多くのかたが新しい発見を得られたようです。新たに始めたこれらの事業は、どれもKIFAの皆様のご協力なしでは、成功させることができなかつたでしょう。豊富な国際交流経験をお持ちのKIFAの皆様のご協力を仰ぎ、また、協働しながら、今後も前進していきたいと考えております。

最後になりましたが、国際交流活動の中核として、ますます発展されますようご祈念申し上げますとともに、会員の皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2008年度実施の主な行事一覧

開催日	行事内容
2008年 4月 13日(日)	総会・パーティー(公民館分館)
6月 15日(日)	親善ボウリング大会(カニエボウル)
8月 9日(日)	町民夏祭り出店(創郷公園)
10月 11日(土)	町民秋祭り出店(町役場前)
12日(日)	同上
11月 16日(日)	KIFA15周年記念共催行事「日本語スピーチ大会」
12月 14日(日)	クリスマスパーティー(源オコミュニティセンター)
2009年 2月 15日(日)	国際交流講演会「私が見た微笑みの国カンボジア」
3月 31日	会報(No.16)発行

KIFA 15周年記念共催行事

「外国人による日本語スピーチ大会」

私達のKIFAは1993年の創立からすでに15年間あまり活動して来ました。日本語教室「日本語しゃべろう会」にはたくさんの外国人が受講しています。このような状況もあり、KIFAは15周年節目の記念行事として、蟹江町主催の「国際理解 多文化共生事業」に共催し、近隣に在住する外国人の方による「日本語スピーチ大会」を開催しました。世界7カ国出身の11名がこれに応募され、日本での生活、経験などについて話されました（発表時間は4分程度）。日本の生活でのとまどい、外国人から見た、“日本人の暮らし”などの題材で興味深い話が聴かれました。町長と会長を含む数名の審査員により、各発表に相応しい賞が以下のように決定され、表彰式で表彰されました（次ページ以降に各発表内容の概要を書きいただきました）。

日 程： 2008年11月16日（日）
 場 所： 中央公民館ホール
 時 間： 13:00～14:20 日本語スピーチ大会
 14:30～15:30 ニシャンタ氏の講演会
 「多文化共生新時代～留学生が愛した国：日本～」
 15:30～ スピーチ大会表彰式

日本語スピーチ大会の発表者と受賞名

発表者	発表題名	国籍	決定賞名
1 トラン・ティ・カム・トウ	「日本、私、ベトナムのこと」	ベトナム	スマイル賞
2 ハス・ガルトン	「愛した日本」	中国（内モンゴル）	蟹江町長賞
3 イジャズ・ビンダル	「日本人と日本での仕事」	パキスタン	パワフル賞
4 八神知恵	「“知恵さん”と呼ばれて」	中国	KIFA会長賞
5 メディロス・ファビオ	「日本で出会った大切な人」	ブラジル	フレンドシップ賞
6 吉田 ヴィタリ	「日本の11年間で学んだこと」	ベラルーシ	ユーモア賞
7 張 建文	「日本の小学生たち」	中 国	国際交流賞
8 渡辺 エルジネチ	「なかよくね」	ブラジル	ファミリー賞
9 グエン・バン・ジャップ	「出会った人ありがとう」	ベトナム	ガンバッタデ賞
10 ナタニエル・ガマド	「日本での人生体験」	フィリピン	ホープ賞
11 上山 まり	「もう一つのふる里」	ミャンマー	心に染みだて賞

表彰式後の発表者一同



「知恵さんと呼ばれて」

八神 知恵（中国）

6年前の11月3日、私は結婚の為、両親と別れて中国から日本へ来ました。そのころ一番困ったのは言葉でした。どこへ行っても言葉が通じません。その時の悲しい心は、だれにも分かりません。それで名古屋国際センターへ電話して、蟹江児童館の「日本語しゃべろう会」をおしえていただきました。そこは赤ちゃんのいる私にも通える距離でした。「知恵さん、こんにちは。」あー日本へ来て初めて自分の名前を呼んでくれたのは「日本語しゃべろう会」の先生でした。その時のうれしかった気持ちは今でもわすれません。私にも日本の名前があったのですが、それまでだれも呼んでくれたことがなかったのです。

「知恵さん、お元気ですか？」その言葉を聞くと、心があたまりました。そこで日本語の勉強をして、人の話ができるようになってきました。それでもまだ日本語が十分ではありません。

こんなことがありました。近所へ野菜を買いに行ったとき、多分私の発音がよくなかったのでしょう。八百屋のおばさんが私に言いました。「どこの国？」「中国です。」と答えました「あー 中国人？泥棒しにきたかな。」その時の会話は、今でも覚えています。正直に言うと、中国人が日本に悪いことをしたことがあります。でも日本にいる中国人がみんな悪

いわけではありません。その八百屋には行かなくなりました。でもKIFAの日本語教室へ行くと「知恵さんお久しぶり。日本語勉強してね。」先生はいつもやさしく声をかけてくれます。娘の百合がいじめにあった時、幼稚園の先生にお手紙を書いてくれました。百合がまだ幼稚園に慣れない時、先生も幼稚園へ一緒に行って園長先生とお話してくれました。先日、百合に「誰が一番好き？」と聞くと「お母さん その次幼稚園の先生」と言いました。それを聞いた時、とっってもおどろきそしてうれしくなりました。

たまに、他の人から「日本語の言い方が悪い」と言われることもあります。でも大人になって日本語を覚えることは本当に大変なのです。特に日本語は助詞の使い方が難しいですし、敬語もあり、男性と女性の話し方も違います。日本語教室の先生は大雪や大雨でも教室にきてくれました。「知恵さん、がんばってね」といつもはげましてくれます。これからも日本語を勉強して、いろいろな人を助けてあげたいと思います。日本語がよく分かれれば他の人に自分を理解してもらえますし、心も通じます。言葉の壁を越えてみなさんと仲良するのが私の夢です。ありがとうございました。



授賞式後のスナップ



KIFAポルトガル語教室へのお誘い

★★ 講師：渡邊ネチ先生、1回/月（火 or 土曜日）、中央公民館 ★★

★ 先生のクラス（火 or 土曜日）：相談で決定、自主勉強（月2・3回）：午後7:30～9:00 ★

会費は3ヶ月¥3,500程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは受講者を募集中です。

詳細、申し込みは担当：中西久子、TEL/0567-95-4749 まで。

皆さん、今日は。私の名前は上山まりです。本名はミヤミヤムーです。出身はミャンマーです。以前の国の名前はビルマです。わたしは、日本人の夫と結婚し、日本に来て17年になり、国際交流友の会の仲間になって11年目になります。今まで、私が歩いてきた道を振り返ってお話したいと思います。

1994年、息子が1歳のときに、蟹江に引越してきました。当時は、外国の人は少なく、私は日本語もほとんどわからず、会話も少ししかできませんでしたので、うまく友達を作ったり普通の生活ができるかと不安で、一杯でした。息子が、ヨチヨチ歩きしだしたころ、こ

どものかわいさに近所の人たちから「どこの国からきたの？」と声をかけてもらったり「あのよー、蟹江は 外国へ遊びに行く人も多いけど、私らも、よその国いきゃ、な〜んにもわからんで、おみやあさんも、

子どもといっしょに がんばりゃあな!!」と言ってもらったことが、嬉しくて、日本のことばを一生懸命覚えれば日本の友達がたくさん作れると気が付きました。

息子が南保育園に入園し、年長の時に友達に誘われて役員になり日本の社会勉強が始まりました。そして蟹江小学校に入学し6年生になった時には、子ども会と地区委員を経験し、教育のシステムや学校を通して社会との関わりも覚え、自分を理解してくれる友達がたくさんできました。蟹江中学校での3年間では、息子も私もたくましくなり、すっかり蟹江人になって、蟹江弁もぼっち理解できるようになりました。こうして、私は日本にも慣れ、みなさんと同じような生活ができるようになりました。でも、どうしても私は、ミャンマー人としてしたいことが、ありました。それは、熱心な仏教の国のミャンマーでは男の子を授かれば、その子が3歳から10歳の間に、頭をそりお寺に行かせて、お坊さんにさせる習慣があります。でも外国にいる私は帰ることができず、諦めていました。ところが、ちょうど2年前の2006年11月に法応寺の大隈家の皆様と友人たちのお陰で、日本のお寺でこの儀式を立派にあげることができ、日本とミャンマーの仏教徒との交流もできました。それはふるさとから遠く離れた私にとって、夢のよ

うな出来事でした。

今年の5月2日、ミャンマーがサイクロンにおそわれたとき時に、私の兄弟が被害を受け、その中の一家

族は家も失くし、生活道具も失くし、自然の恐ろしさを知りました。

悲しくお落込んでいたときに、たくさんの方の友人や、知り合った小学生から、高校生、おじいちゃん、おばあちゃんまでが、心配してくださって、励ましの言葉や援助をしていただき、兄弟の元へ届けることができました。兄弟たちが、「まりは、ひとりぼっちじゃない。日本の友人に囲まれて安心した。」と喜び、心から感謝していました。皆さんのお

陰で、私は私の人生の中でもう一つのふるさとを見つけました。私にとって、もう一つのふるすとは、蟹江です。生まれた国、ふるすとは、ミャンマーですから、ミャンマーのことは、忘れません。ミャンマーの心は大切に守りながら、日本人たちの温かさをいつも心と体で感じています。蟹江にいるたくさんの方の友達に心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。

もう一つ日本で暮らす外国人の一人として、お願いしたいことがあります。蟹江で子育てをし、働いている多くの外国の人たちは、まだまだ、日本の文化や言葉がわからないために友達ができず、日本の社会に入れなくて寂しい思いをしています。私のように日本で生活し子どもを育てていく外国人のためのサポートをお願いしたいのです。日本人の友達がいないければ、学校のシステムも日本の社会のシステムもわかりません。でも、子どもたちはその中で、どんどん大きくなっていきます。日本人のお父さんや、お母さんには普通のこと、外国からきた来た私たちには分らず、子どもが悲しい思いをすることもあります。そのことを乗り越えるために、普通に生活するための交流や日本語の勉強を親子で、気軽にできるような環境があればいいなあと思います。

そして、それぞれの国の人を通して自分たちの生まれた国のことを、皆さんに知ってもらうことが、本当の国際交流になると思います。これからも、私は友人たちと手を握りあって、人生の階段を上っていきます。どうも、ありがとうございました。

交流友の会



KIFA 英会話教室へのお誘い

★★ 講師：ジョン山本先生、第2、4日曜（月2回）、中央公民館 ★★

★ クラスA：午前9:00～10:30、クラスB：午前10:30～12:00 ★

会費は月々2,000程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは受講者を募集中です。

詳細、申し込みは担当：青木猛、TEL：0567-31-1216まで。

「日本の11年間で学んだこと」

吉田ヴィタリー (ペラルーシ)

私が13年前通訳として仕事をしていた時、お寿司のお店に招待された事がありました。その時二人の女の子が水槽の中を泳ぐ姿を指差しているのを見たのですが、今思えばそれが私のカルチャーショックのはじまりでした。その時水槽の中の生き物は単に海の自然の生き物をそばで見ることが出来るようにディスプレイしているお店の飾りだと思ったのです。しかし、お店の人がそのたこを取り出し、料理し始めて、たこの足を細かく切り出した時に初めて私はあれは美しい飾りではなく、日本人は海の生き物を生のまま食べるとわかったのです。それが私の日本での初めてのカルチャーショックでした。でも今となってはたこのさしみなどはとてもおいしいとわかりましたが・・・今はさしみをよく食べています。

私達はここ日本で自分が育った文化とは違う文化の環境の中にいます。だから回りの人たちをよく見て習わないといけないです。そして、この社会の中で



適切な社会のメンバーであろうという努力をしなくてはいけないと思います。外国人の中で日本で私達は数が少なく不利で、あまりなにもできないという人たちもいます。私達は確かに少数ですが、したいことが出来るか出来ないかはどれだけ努力するかにもかかっていると思います。よく準備してゴールのために努力するならば結果を出す事ができると思います。

私は今会社を自分で作って頑張っているところです。本当に達成したいしっかりした目標があるのなら私が以前聞いた素晴らしいルールがあるので紹介したいです。一つ、自分がなにがしたいのかはっきりと目標をたてること。二つ、それを以下にしたら達成できるのかを考え実行すること。三つめは、いつそれを実行するのか計画してよいタイミングを見計らって実行することです。しかし、一番大切なことは、自分達がいる社会的なルールにそって目標を達成するという気持ちが大切だと思います。

「日本での生活経験 (日本に魅了されて)」

ナタニエル・ガマド (フィリピン)

こんにちは、私はフィリピンの小さい山村から来ましたナタニエル・ガマドです。どうぞよろしくお願ひします。建設工事の技術を学ぶ研修生として日本にきました。それは日本とフィリピン政府の研修プログラムでした。子供のころから、日本と日本人に興味がありました。それはセイコー、ソニー、トヨタなどの日本製品の名前からだと思います。それらは私に日本はどこにあるのだろうと思わせました。小学校へ入ってから、日本は、アメリカに比べれば小さい国だけど、アメリカと同じ一流先進国であることがわかってきました。日本は戦争の傷跡から立ち直り、大きな経済力をつけたことに感動させられています。大人になってから、祖母の兄が第二次世界大戦の頃に日本人と結婚したことを知りました。だから、私は日本人とフィリピン人のハーフの伯母と伯父がいます。その後、戦争で別れ別れになった親戚が日本から私の所を訪ねて来ました。それで私はいつの日か日本に行って日本人や文化や伝統などと、そして、どうして偉大な国になったのかを学ぶことが夢となりました。

日本の生活は2004年2月1日からスタートしました。その日は私にとって夢が実現した日です。今私はまさに「日出る国」ここにいます。日本と日本



人に実際触れ合っています。日本に着いてすぐに最初の10日間を過ごすための研修センターに行きました。その後、私は会社の社長に連れられて蟹江へ来ました。会社は橋の建設と土木工事をしているので、日本の高い技術を経験できます。仕事の最初の日に、カルチャーショックだけでなくシステムショックを受けました。毎朝、仕事の前に体操をし、その日の仕事についてのミーティングや安全に仕事ができるよう厳しく教えられます。驚くことにこれは毎日行われます。労働力はしっかりとした訓練から生まれることがわかりました。

日本の文化で興味深いことは祭りなどの各地にある伝統的な習慣です。特に素晴らしいことはみんなが挨拶をするときにお辞儀をすることです。そのことは素晴らしいことです。今、私は自分に問いかけています。「自分の経験から何を学び、日本についての興味に答えは得られましたか？」私の3年間の研修は来年の1月に終わります。しかし、この3年間では満足ではありません。もっと仕事の方法や日本語や文化を学びたいです。だからここに帰ってきたいのです。誰か私のスポンサーになってくれませんか？ありがとうございます。「がんばります」

「日本、私、ベトナムのこと」

トランティ・カム・トゥ (ベトナム)

みなさん、こんにちは。私はトゥと申します。2年2ヶ月前にベトナムから日本に来ました。今は、蟹江町今いせ苗代に住んでいます。あいこ製作所で働いています。私の仕事は鉄板を曲げることです。現在、日本語の土曜日のクラスで勉強しています。今日は外国人による日本語スピーチ大会なので、面白いことを話します。皆さん聞いてください。

日本へ来てから今まで、面白いことがたくさんありました。例えば、春には岐阜県のなか公園へ花見に行きました。ベトナム人の友達と一緒に出かけお弁当を持って、ギターを持って、一緒に食べて、歌を歌って楽しみました。夏には津島の「天王まつり」とか、蟹江の図書館で「夏のお祭り」も行きました。ゆかたを着て「盆踊り」をしました。秋にはこの役場で「おまつり」に参加し、皆さんとボランティア活動にも秋の踊りにも参加しました。冬にはクリスマスのパーティで、「おもちつき」を行ったことがあります。そのほかに日本の生活のことも面白いと思います。

はじめに日本の家に入ったとき、お手洗いと畳に私は強い印象を持ちました。日本へ来る前にベトナムで日本の手洗いの事を先生から教えてもらいましたが、家に入るとお手洗いの場所は、玄関の次ですよ！ベトナムのお手洗いの場所はいつも家の一番後ろですよ。ベトナム人にとっては、お手洗いは微妙なことです。それでお手洗いは、あまりきれいなことではありません。なぜならば、お手洗いの場所に私はびっくりしましたよ。でも誰にも聞かないのですけれども、自分が考えるにはたぶん日本人にとって毎日お手洗いは必要なのできれいにしているのだと思います。

畳はベトナムと比べると全然ちがいます。ベトナム



ムでは畳はベッドの上に敷きます。でも日本では畳を床の上に敷きます。私の部屋も畳の部屋です。好きです。さらに去年、名古屋港へ行きました。あそこは大きい船があります。見学したい人はいっぱいですから、長い行列をつくりました。電車に乗る人も、おいしい食べ物を食べたい人も並ばなければなりませんよね。ベトナムで、そんなことはあまり無いのです。ですから私の頭の中にたくさん考えることがあります。ベトナム人もこのことが出来るようになるとうれしいとおもいます。

交差点では、日本人ドライバーはたとえ誰もいない時でも赤信号では、皆さん絶対止まります。ベトナムでは、警察が居ないと殆んど皆は止まりません。私の言いたいことはベトナムが悪い、日本が良いという意味じゃないですよ。日本をみて、ベトナムにとって良いことを勉強して持って帰ります。

それから今、日本で私は自分の生活を楽しくしています。面白いです。前は日本語があまりわからなかった。でも日本語のボランティアのクラスで先生は、誰もがやさしくて、いろいろなことを教えてもらいます。日本語のクラスで、日本語と日本の文化を教えてください。蟹江町のボランティアの皆さんと先生に心から「どうもありがとうございます」。

私たちは中国人、ブラジル人、タイ人、ベトナム人、良い教室で、言葉も、文化も交換します。ベトナムに帰ってから私の目標は、日本語の先生になりたいことです。日本語と日本の文化をもっと勉強したいのです。みなさんどうぞよろしくお願いします。

聞いていただきありがとうございました。

KIFA日本語教室「日本語しゃべろう会」の案内

★火曜日クラス：毎週火曜日、10:30-12:00
蟹江児童館（蟹江中学校の西隣り）
連絡先（担当）：若山高義、TEL/0567-95-5291

★土曜日クラス：毎週土曜日、19:30-21:00
中央公民館（蟹江町役場裏）
連絡先（担当）：八神里美、TEL/0567-95-0307

詳細については上記の役員までご連絡下さい。

日本語しゃべろう会 火曜日クラスボランティア講師の富岡恒子です。このクラスを担当させていただいてから5年以上になります。今年度は親戚の葬儀の時以外は皆勤賞でした（ヤッタネ）。11月のスピーチ大会や今年1月のチャリティ歌謡祭などで大活躍した中国出身のチュン・チェ（八神知恵）さんが日本語能力検定試験2級に合格しました。毎週、津島より蟹江児童館まで頑張って勉強をしに来て下さいました。

1995年頃はフィリピン人の生徒が多くなりましたが中国人、ベトナム人、タイ人等が多くなりフィリピン人は減少していきました。でも近頃はブラジル人、韓国人、フィリピン人もたくさん来て下さる様になりました。これからもよろしくお願いします。

日本の小学生たち

張 建文 (中国)

皆さん、こんにちは、私は中国香港の隣のしんせん市から参りました張建文と申します、今年1月16日に日本に来て、今日で丁度十ヶ月となりました。現在は知立市内の企業で働きながら、週に一度知立市国際交流協会親善ボランティアの日本語教室で日本語を勉強しています。きょうは私が日本の生活で見た小学生たちのことをお話ししたいと思います。

わたしが小学生たちにとっても興味を持っている理由は、私自身が小学生の娘の父親であることかもしれません。日本に来て、小学生たちの姿を目にしますと、思わず中国にいる娘のことを思い出します。最初に日本の小学生たちと会ったのは出勤途中でした。私は毎日会社の送迎バスで通勤しています。いつもバスのまどから小学生たちの登校の列を眺めていると、日本の小学生たちは、そろいの黄色い帽子やランドセルで、通学班の旗を持った上級生がリードしながら、集団で登校するということが良く分かってきました。また、通学路の各交差点では、交通安全のたすきを掛けたお母さんたちが、横断歩道を渡る小学生たちの安全を守るために、信号が変わるたびに真剣に誘導する様子も見られました。

中国で一人ずつ親が学校へ送ることに慣れた私は、色々なことを感じました。小学生たちは集団で登校すると、学校以外でも馴染んで、もっと仲良くなるのではないかと考えています。さらに当番のお母さんたちも自分の子供だけでなく、地域ぐるみで子供たちを守ろうという気持ちになっていくのではない

でしょうか。また小学生たちに小さいころから交通規則を守ろうという意識を、自然に伝えているのではないのでしょうか。この習慣があるからこそ、世界でも褒められるほど交通規則をちゃんと守る日本人になれるのではないかと考えています。

今までの日本滞在中に、小学生たちと唯一親しく接したのは猿渡小学校体育館でのイベントに参加した時のことでした。活動は小学生が主体、大人のサポートによる、ゴミに関する4R(リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ)の説明と体験コーナーなどでした、小学生たちによる案内で、エコバッグに絵を描いたり、一緒に空のペットボトルを使って花瓶を造ったり、とても楽しい一時を過ごしました。絵が苦手な私は隣で上手に書いていた小学生たちが羨ましかったです、特に小学生たちが私以上にエコの知識をもっていると感じ、日本の街、自然がなぜ綺麗かわかったような気がします。これは小学生たちのお陰で出来上がったエコバッグです(バッグ実物見せる)、このバッグは私と小学生たちの絆だと思って、大事に利用したいと思っています。

小学生の娘をもつ私にとって小学生は大きな関心ごとの一つです。これからもチャンスがあればもっと日本の小学生たちを理解したいと思っています。今回、このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。最後に日中両国の友情を心から祈っております。



「かにえ国際交流友の会の先生方へ “ありがとう”」

グエン・バン・ジャップ (ベトナム)

かにえ国際交流友の会で、日本語を勉強したのが私たちの研修生の多くの幸です。勉強の時は、先生がだれでも優しい人です。勉強の時は、問題点があれば先生方は私たちによく分かるように、熱心に説明してくださいました。勉強以外は、日常生活や習慣などを教えていただきました。だから日本に住むことが安心となりました。なお、私たちは文化交流の条件があるように、パーティをよく行われます。

言葉が違っても、いっしょに食べたり、写真を撮ったりしました。本当におもしろかったです。先生方は、私たちと“暮らすこと”“仕事のこと”に「がんばってください。」と注意します。(注 励ましてくれます。の意) 私は家族と離れて暮らしているの、深く世話になったの

はとてもうれしいです。(注 たくさん世話していただきとてもうれしかった。の意。) だから私たちは、もっとがんばろうと思います。

会社で仕事をした後で、日本語を勉強するのは私の日本へ来ている一つの目標です。2008年11月16日に私は外国人によるスピーチ大会に参加しました。今度は、はじめて多くの人の前で発表しました。ほんと緊張しましたが、先生から応援してもらってから、自信になりました。やっと発表が終わりました。ほんとにうれしかったです。

最後になりますが、先生方がいつも健康でありますように！ どうもありがとうございます。



「なかよくね」

渡辺エリザネッチ (ブラジル)

ブラジルから来た渡辺エリザネッチです。初めて日本に来たのは今から12年前です。2週間いましたが、真冬でとても寒かったです。朝起きたら庭が真っ白でおどろきました。それまで雪を見たことがありませんでした。私の住んでいたのはアマゾンで1年中暑かったのです。初めて見る富士山の美しさにも感動しました。夫の家族に紹介されて日本人のやさしさが心に残りました。私はその時、結婚して日本に住むことを決めました。

夫のお母さんは車椅子を使っていますが、不自由な体でまだ日本語が話せなかった私を守って助けてくれました。日本の言葉や料理や習慣等、生活に困らないようにいろいろおしえてくれました。時にはお母さんのアドバイスが厳しいと思ったこともありました。たとえば保育園の先生がたずねてきた時、玄関で立ったままあいさつしました。あとでお母さんに「そういう時は座ってあいさつしなさい」と注意されました。私はお客さんに失礼だったと分かりはずかしくなりました。そんな時は日本の習慣のむずかしさになやみま



したが、今思えば私を本当の娘のように思って注意してくれたのだと感謝しています。

3年前お母さんはなくなりましたが、楽しい思い出をたくさんいただきました。私達がけんかしている時いつもお母さんが言っていた言葉「なかよくね」をよく思い出します。今は長女が9歳、次女が5歳になりました。多美と恵理沙という娘2人に恵まれて幸せな家族になりました。日本料理も得意になりました。特にみそ汁が大好きです。初めははしを使うのは大変でしたが今は上手に使えるようになりました。12年の間に友達もたくさんできました。その友達からもいろいろなことを学びました。困ったとき助けていただいたこともあり、とても感謝しています。

日本語は読み書きが難しくてなかなか上手になりませんが、こどもにまけないようにがんばって覚えたいです。今ではおかあさんの言葉「なかよくね」が私達家族の言葉になってよく使います。「なかよくね」と。以上です。ありがとうございました。

「日本で会った大切な人」

メディロス・ファビオ (ブラジル)

私の名前はメディロス・ファビオです。去年の2月に妻と息子と3人でブラジルから来ました。日本に来た目的はお金をためてブラジルに家をたてることです。そして、家族には少しでも楽な生活をさせたいと思っています。日本のことは何も知りませんでした。知っていた日本語は、「ありがとう」だけです。ひこうき代ははけん会社からかりました。4ヶ月かかって返しました。とても苦しい4ヶ月でした。一番こまったのは言葉です。こまった時は日本語のわかる妻のおとうさんに助けてもらいました。病院や役場にはお金を出して通訳の人をたのみました。

会社の人にも親切にしてもらいました。特に、ヒロセさんには仕事や日本語や日本のことをたくさん教えてもらいました。とてもかんしゃしています。もう一人、ヤクシジさんにもとてもお世話になりました。かれはいつも親切にしてくれます。一度もお金を受け取りません。5月に娘がうまれる時もうまれたあともかれのおかげで本当に安心でした。私達家族にはとても大切な人です。



今年1月から日本語教室に行っています。さいしょは先生の言っていることがよくわかりませんでした。先生は何回も親切に教えてくれました。今は漢字も少し読んだり書けるようになりとても楽しいです。日本のこともたくさん教えてもらいました。会社でも日本語で話せるようになりました。8月には車のめんきょもとれました。たくさんの親切な人や先生にはげましてもらったり、ささえてもらったおかげです。本当にありがとうございました。

こまったことはたくさんありました。でもブラジルに帰ってからは楽しいことばかり思い出すでしょう。日本の人たちともしっかり話ができるようにがんばって勉強します。ヒロセさん、ヤクシジさん、先生、みなさん、本当にありがとうございます。子供たちに日本語を教えられるようになりたいです。そして日本人の友達をたくさん作ってほしい。日本に来て本当によかったです。どうもありがとうございました。

「ヤンゴン（ミャンマー）の「HHHP」（*）の施設を訪ねて」

磯部 正弘

6月8日から14日までミャンマーを訪れました。1ヶ月余り前大きなサイクロンに襲われたヤンゴン。テレビの映像では何度も見てはいましたが、現地を訪れてみずと被害は想像以上でした。直径1メートル以上もある大木が無数に倒れており、市内のあちこちで倒木が山積みになっていたり、あるいは倒れたままであったりとまだまだ回復途中でした。ミャンマーの象徴であるシュエタゴンパゴダも金箔の一部が剥がれたり、周りの建物の屋根が無くなっていたりしていました。友人の家も敷池内の4本の樹の内3本が倒れ、しかも、その樹が家に倒れ屋根が壊れたそうです。別の知人も同じように樹が倒れ、居間と台所の屋根が壊れ、水浸しになったそうです。ヤンゴンですらこのような状態です。もっと被害の大きかった南部あるいは南西部のデルタ地帯の状況は想像を絶します。しかしミャンマーは仏教国です。国民の多くが強しき仏教を信仰しています。私の友人もグループをつくり、週に一度ボランティアでお米や水を持って被害地へ行っているとのこと。そのようなグループがいくつもあられるようです。困った人がいれば、余裕のある人がそれらの人々を助ける。それがあたりまえの世界を目の当たりにして強い衝撃を受けたと共に、少し安心をしました。

今回、ミャンマーへは私を含めて3人で訪れまし

た。ヤンゴン以外にバガンとインレイ湖を観光してきましたが、サイクロンの直接の被害はこれらの地域では見られませんでした。別の被害を受けていました。観光客がほとんどいないのです。数年前からヨーロッパからの観光客が増え、バンコクからヤンゴンへの機内は満席状態が続いていました。今回も機内は行きも帰りも満席でしたがヨーロッパからの観光客はわずかでした。友人の話ではビザがなかなか下りないとのことでした。ホテルもレストランもほとんど客が来ず、苦しい経営が続いているようです。

最後になりましたが、ヤンゴンのエイズの子供たちの施設はサイクロンの被害はほとんど受けなかったようです。新しい家も建築中、今月中には完成するそうです。子供の数も3人増え16人になりました。「かにえ国際交流友の会」の皆様からお預かりしました1,000ドル＝現地通貨で1,140,000チャットに少し足して合計1,200,000チャットを寄付させていただきました。業や建築中の家のために使わせていただきますとのことで、大変喜んでおられました。

* HHHP: Happy Haven Humanitarian Project

K I F Aは、仕事の関係でミャンマーに詳しい磯部さんを通じて、ミャンマーの子供達の支援（小学校施設や児童支援施設などへの援助）を続けています。



寄付金の手渡し（右が磯部さん）

施設の子ども達



寄付に対する感謝状

HAPPY HAVEN HUMANITARIAN PROJECT

သုခရိပ်မြို့ လူမှုဆောင်ရွက်ရေးစီမံဦးစီးဌာန

No. (073-982), Tabonswawee Road, Ward No. 01, North Dagon, Yangon
ဗဟို (၉၅၅-၉၈၂) တောင်ဗုဒ္ဓဘောင် ၀၁-ရပ်ကွက်၊ သီတင်းပတ်၊ ယန်ဂွန်

HHHP

Acknowledgement of Donation
ရက်ပြည့်တမ်းလွှာ

Name of Donor
အလှူရှင်အမည် _____

Address
လိပ်စာ _____

Amount of Donation
အလှူငွေငွေဝက် _____

Purpose of Donation
အလှူငွေ ရည်ရွယ်ချက် _____

The Children and the Management Committee of Happy Haven thank you for your kind generosity.

ရည်ရွယ်ချက်ပေးသော အလှူရှင်ထံ သုခရိပ်မြို့ ကလေးကုသရေးနှင့် အုပ်ချုပ်ရေး ယက်မဏိက ရက်ပြည့်တမ်း လာရမည့်ပလီကောအောင်မြင်ရေး ဗဟိုကော်မတီရက်ပြည့် အပ်ပါသည်။

President/ဥက္ကဋ္ဌ _____ Secretary/အတွင်းရေးမှူး _____

マリオン市との交流 ～蟹江町中学生海外派遣交流事業～

アメリカ合衆国イリノイ州マリオン市。独立戦争の英雄であるフランシス・マリオン将軍にちなんで名付けられたこの街は、イリノイ州で2番目に大きく、この地域で最大の小売商業の中心地です。蟹江町は、昨年从这个マリオン市との交流を始めました。海外で視野を広げ、国際的な感覚を身につけることを目的として、8月には町内の中学生を派遣し、市長表敬訪問やホームステイなどの貴重な体験をしていただきました。

現地では、最初は戸惑いながらも、自ら英語を駆使して行動する生徒たちの姿が見られました。また、現地のメディアにも蟹江町や中学生についての報道が及びました。



スケジュール

8月22日(金)	セントルイス空港に到着
23日(土)	マリオン市歓迎レセプション、ホームステイ開始
24日(日)	スプリングフィールド市内観光
25日(月)・26日(火)	市長表敬訪問、マリオン中学校体験入学、アイシン精機現地法人訪問など
27日(水)	セントルイス市内観光
28日(木)	セントルイス空港よりデトロイト経由で帰国



派遣中学生の感想(一部を抜粋)

■ 次の日、ぼくはBlakeと共に行動をしました。するとBlakeの友達そのまた友達とどんどん話しかけられ、あっという間に数え切れないほどの友達ができました。

■ 帰ってからは、ジュディーさんとはEメールでやり取りをしています。わたしたちのことを礼儀正しく、心優しいと思ってもらったようで、うれしく思います。

■ 私がとても驚いたのは、授業中にお菓子を食べていいところです。私にもお菓子

がまわってきて1つ食べました。こんなにラックスした授業もいいと思いました。

■ 日本企業のAISINの工場も見学しました。AISINでは、外国人だらけの従業員の中で、少ない日本人の方が活躍しており、「すごい、僕も世界に通用する人間になりたい」と思いました。

■ 私は日本語、ケイシーは英語。言葉が全く通じない中でのケイシーの優しさに私は感動しました。そして私は思いました。「言葉が通じなくても、心が通じ合えば、思いは伝わるんだ。」と。よく聞く決まり文句みたいですが、それが決まり文句でなく、事実となった瞬間でした。



蟹江町とマリオン市は今後もこのような交流を続けていく予定です。

夢見る少女の頃、モンゴメリ作「赤毛のアン」を読まれた方は多いと思います。私もその一人で、アンのシリーズを次々読んで「赤毛のアン」の舞台プリンスエドワード島（略してPEI）に憧れていました。



なにしろアンが「世界で一番美しい所」と言っていましたから。その夢が40年以上たって叶うとは！それも高校生の頃、隣の席でやはりアンのファンだった友達(美恵ちゃん)との2人旅です。折りしも現地は「赤毛のアン」出版100年祭に沸く2008年の初夏でした。

美恵ちゃんは東京に住んでいますので、卒業後会ったのは同窓会で2、3回でしたが、意気はピッタリ。年はとっても性格は案外変わらないものです。2008年の正月過ぎからメールをやり取りしながら計画を立て始めました。B&Bのオーナーさんとのメールのやり取りも面白いものです。「当方、年はともかく気持ちの若いレディー2人です。」と送りますと「お会いするのがとても楽しみです！駅まで迎えに行きます。」という返事。

さて、6月23日「花の島」と言われているPEIの一番美しい季節に、3週間に渡る二人の弥次喜多道中が始まりました。カナダは私にとって初めての旅、美恵ちゃんにとっては3回目の旅でした。彼女は海外生活が長く英語も堪能、筋肉トレーニングも欠かさないので力持ちでタフ。これ以上心強いパートナーはいません。それでも「アン」同様、想像力もそそっかしいところもある2人ですからいくつかの失敗もありました。

トロント、モントリオール、ケベック、とゆっくりまわり、7月3日寝台特急でモンクトンにはいりました。ここからPEIはもう目前！長距離バスでケープ・トーマンタインを通過してコンフェデレーションブリッジ(世界最長の美しい橋)を渡れば3時間ぐらいでシャーロットタウン(PEIの州都)に着きます。憧れのアンの島はいよいよ目前となり心は逸りますが時計を見るとバスの出発まで2時間もありません。駅は小さくて何もなさそう。外を見ますと大きなスーパーがありました。丁度お昼だったので、ゆっくりランチを食べて帰ってきました。ところが、今まで駅でバスを待っていた客が一人もいません！窓口で聞くと今出て行ったばかりとのこと。そして今日はもうバスがない。



「そんなー！」と2人。日本なら絶対放送してくれたでしょうに。さっきは日本から一人旅で来たという頼りなさそうな女の子やお年寄りもいましたが、ちゃんとバスに乗ったみたい。「みんなしっかりしているのね…」仕方がないのでモンクトンで一泊して翌日のバスでPEIに出発しました。「一言放送してくれてもいいのに」とさんざん文句を言ったので「モンクトン」という地名が忘れられません。

PEIは青い海に浮かぶ花と緑の美しい島で、パッチワークのような畑の中に赤い道がどこまでも続いています。野生のルピナスが海岸線をバックに色とりどりに咲き乱れていました(写真参照)。B&Bのオーナーさんはキルト作家で大阪の百貨店にも招かれたことがあるとか。私達が泊まった部屋も見事なキルトのベットカバー、クッションで飾られ、あたたかい雰囲気でした。そこに滞在して他のゲストとも親しくなりいろいろ旅情報を集めたりもできました。朝食時には英語、フランス語、日本語が飛び交ってまさに国際交流です。

バスに乗ってシャーロットタウンからキャベン



ディッシュ(アンが住んでいたアボンリーのモデルの村)に行った時、面白いことがありました。私の隣に座った紳士のジョンさんとお話していたら

なんとその方が著名な作家で「アン」を書く時モンゴメリがモデルにした女の子について書かれた本「エレン」を出版したばかりとか。エレンはモンゴメリの子ども時代近所に住んでいた孤児で、子どものいない姉弟に育てられていました。モンゴメリはその少女とよく遊んでいたのがそれがインスピレーションとなって「赤毛のアン」が生れたそうです。そのエピソードは私も含めて知らない方が多いと思います。私はジョンさんから「エレン」の本を求めてサインしていただきました。その本は私の宝物です。

個人旅行の良さはゆっくりできること。気ままにいろいろな所へ行ったり、ミュージカルを見たりできること。その国の人々と交流できることです。その代わり多少の失敗はありますが、それも思い出の内。若いうちは個人旅行、年をとったらツアーでしょうか。とするとまだまだ私は若いつもり???

いつまでも「Young in heart」で人生の旅も楽しみたいと思います。

「元気なニカさん、スロヴァキアから！」

谷中 ひさ子

鈴鹿セブンマウンテンの御在所岳・1,212m、中道を登り、一の谷新道を降りる登山に挑戦したのはスロヴァキア女性ドミニカ (Dominika Kacerova) さん、通称ニカです。毎週ほど御在所を登っている甥のたっちゃんの案内で、ボーイスカウトのリーダーとして歩くのには慣れている娘婿のトシ君と、山登りは久しぶりでちょっと不安な私が付き添いました。



鈴鹿スカイラインにある登山口から登り始めた時、大丈夫かな～？と心配なニカの様子でしたが、歩く調子をつかむと、そこは若さで快調に先頭を登って行きます。途中、ロープウェイに手を振ったり、おぼれ石付近ではクサリに頼って登るようなちょっとしたロッククライミング気分も味わったり。また、一歩間違えば足を踏み外しそうな所は慎重に慎重に。中道最後の急勾配を登りきると頂上！約1時間半の登山でした。山頂公園でおにぎりの昼食。ここではアカトンボの羽根に御在所岳の「G」と書いて、数を記録して放す、というイベントが行われていました。それにもニカは興味津々。秋にどこまで飛んで行くか行動範囲を調べている、という日本語での説明も殆ど理解できます。登りより急な道を下る時も、落石をしないよう慎重に下

り、まだ21歳とは思えない思慮深さに感心しきりの私達でした。

蟹江ライオンズクラブの国際青少年交換・YE (Youth Exchange) 生として2008年7月15日から8月17日まで蟹江町内のホストとなる家庭に滞在し、さまざまな人たちと出会い、各地に旅をしたことは、彼女にとって大きな異文化体験となったでしょう。現在、ウイーン大学の学生で日本文化を専攻し

ているニカは、日本滞在中で撮った大量の写真や資料を基に研究を深めていることと思います。京都、奈良、広島、姫路への旅行はもとより、蟹江警察署表敬訪問で見た剣道や居合ひ抜きの極意、弥富の金魚、多度大社、須成祭り、バレーボールクラブの練習に参加……もちろんホストファミリーとのふれあいはなにものにも代えがたい経験に違いありません。

先日、スロヴァキアから送られてきたチョコレート、ニカの思い出と共にK I F Aのメンバーとい



講演会「わたしの見た微笑みの国カンボジア」を聴いて

伊藤 玲子



JICA (国際協力機構) の青年海外協力隊員として2000年12月から2003年6月までカンボジア王立プノンペン大学で日本語教師を勤められた伊藤和枝さん (蟹江町在住) にその体験を語っていただきました。またその後、約50名の聴講者と共に、伊藤さんのご指導のもと作ったカンボジア料理、カレー (ココナッツカレー)、ノム・ロバウ (かぼちゃプリン)、アモック (白身魚の茶碗蒸し) の試食をしました。

現在は2児の母である伊藤さんが熱く語ったポル・ポト政権の大量虐殺、キリングフィールド (虐殺が行われた刑場跡) の話は、平和ボケした私にはショッキングでした。でもカンボジアを語るのに避けては通れません。1975年から3年8ヶ月に及ぶポル・ポト政権は、医者、教師、僧侶、技術者など知識階級を殺害しました。学校教育も禁止しました。住民は田舎に大移動させられ、農業以外の仕事に就くことを禁じられました。戸籍も廃止され、「片方の手を頭の上に伸ば



し、反対側の耳をつかむ」という動作ができたなら、多分6歳だろうと判断されたそうです。カンボジアには、約30年に及ぶ内戦中に大量の地雷が埋め込まれ、現在でもまだ150万個も地中に埋まったままです。毎年多くの人が地雷を踏んで命を落としたり、手足を無くしたりしています。伊藤さんはそのような状況下で貧しい生活を強いられているにもかかわらず、「オッパニャハー (大丈夫、なんとかなるさ。)」といて明るく微笑みを絶やさないカンボジアの人々に心を打たれたそうです。「なぜ勉強するの？」と尋ねたら、「財産は人に盗られるけど知識は増えていくだけ。盗られないから。」という答えが返ってきたそうです。

最後に伊藤さんは、「世界を見ることで日本を見つめ直すことができた。そして命の大切さを教わった。」と語られました。講演後の試食会も大好評で、展示されたカンボジアの民芸品を鑑賞しながら楽しく料理を味わいました。



世界の国旗：ブラジル連邦共和国



現行国旗は1992年に制定された。緑色は森林資源と農業、黄色は鉱物資源を示し、青い天体にブラジルと26の州が星で表される。内の帯には「秩序と進歩」の文字が記されている。

KIFAイベントボランティア募集

右記の各行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募ります。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願ひします。

2009年度の年間行事予定

日時	行事
2009年 4月12日	総会、懇親パーティー
6月14日	親善ボウリング大会
8月8日	蟹江夏まつり参加
10月10日	蟹江秋まつり参加
11月	蟹江町共催行事(未定)
12月13日	クリスマス会
2010年 2月14日	国際交流関連講演会
3月末	会報 (No.17) 発行

KIFA主催の通年教室(講座)
日本語教室(外国人向け)、英会話教室
ポルトガル語教室(本文中に案内あり)

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企業会員

蟹江住宅設備(株)	(株) T・A・G	(株) 東洋工機
-----------	-----------	----------

賛助会員

アソビックス蟹江	(株) イシカワ・リボン	イソベ商事(株) 湯本館	イマニ外国語教室
宇佐美自転車商会	(株) 片桐銘木工業	甘強酒造(株)	共同建設(有)
(株) クリンテック	(株) 近藤溶接	西光寺	西福寺
(株) 鈴鋼製作所	月星歯科クリニック	日光鋳工場(株)	松屋呉服店
丸信製粉(株)	(有) 宮長食品	三六うどん屋	もへの寿司
山田栄子	龍照院	(株) 若葉	渡辺畳店

KIFA ホームページ <http://kifa.web.infoseek.co.jp>

☆☆ 編集後記 ☆☆

このKIFA会報は通常年1回、3月末に発行されます。内容は当会の行事関連報告等と、広い意味での「国際交流」関連の寄稿記事を中心に構成されています。記事等は常時受け付けています。また、会報全般(内容、デザイン、レイアウト等)への注文、コメント等もぜひお寄せ下さい(ふ)。

発行：かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画情報課内

〒497-8601 蟹江町学戸3丁目1番地

TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188